

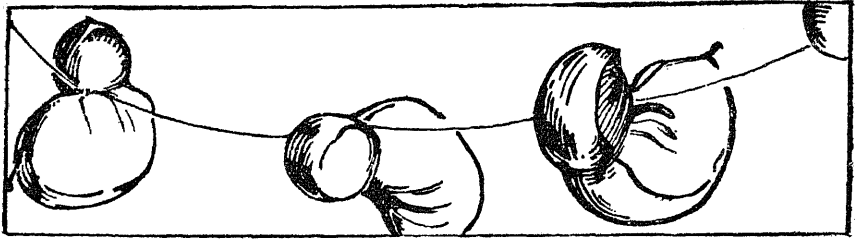
# 幼見之教育



第 三 號      三 月 號      第 四 十 四 卷

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

日 本 幼 稚 園 協 會



第 三 號 幼 兒 教 育 第 四 十 四 卷

— (次 目) —

飛行機をつくる子等……………	倉橋惣三(一)
保育刷新の一指標(三)……………	小川正通(二)
幼児の科學疑問の調査(二)……………	有元石太郎(六)
幼稚園への希望……………	波多野勤子(八)
こみばのしつけ……………	金丸光(〇)
野外保育の記録……………	齋藤八重子(三)
お話遊び……………	徳久智江子(五)
日本幼児飛行機獻納貯金の第二回提唱に就て……………	(一八)

# 保 育 奉 公

## 大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

### 飛行機をつくる子等

倉 橋 惣 三

枯枝にひつかゝつた紙飛行機を見上げて、子ぎも等がさわいでゐる。そのいろ／＼の聲の中に、「自爆、自爆、こいふ勘高い聲も聞える。風は冷いが日光の強い或る午前である。

その日光の一ぱいにさしてゐる大襦子の窓を背に、机一つを占領して、さつきから飛行機を折りつゞけてゐる男の子がゐる。その机の上には、もう幾つもの紙飛行機が行儀よくならんでゐる。

「これ呑龍ねえ。」

傍を通りかゝつた二人の女の子の一人が、その中でも大きい一機を指さしながら言つたが、振りむきもしない。

「あらまあ、こんなに澤山。幾つつくるの。」

「、もう一人の女の子が聞いたが、返事もしない。

「一機飛ばさうよ。」

元氣よく馳けて來た男の子が、手を伸ばして、その一機を取らうとしたが、つばらな目に威嚇をもつて、その友達をぢつと見たまゝ手ではやつぱり折りつゞけてゐる。

やがて材料が盡きた。その子は立つて先生のまゝころへ行つた。

「また。そんなに澤山………」

「言ひかけて、その子の廣い額に目をやつた先生は口調をかへた。

「あげますよ。いくらでもあげますよ。材料はこんなに澤山ありますよ。」

ミ箱の中の、古新聞をきちんと切つた一束を、子ぎも目の前に見せながら、子ぎもの取るに任せた。さうして、だまつて机へ歸つてゆくその子の、しつかり張つてゐる肩を見送りながら、ちよつと唇を噛むやうに、またふるはせるやうにして、小さい聲で言つた。

「一機でも多く。」

若い先生の頬は紅潮してゐる。

# 保育刷新の一指標

——新制師範學校に於ける保育實習要項を中心として(三)——

奈良女子高等師範學校教授  
附屬幼稚園主事

小川正通

## 六 保育方法の刷新

保育方法も亦前述の保育理念の下、刷新せられねばならない。一體幼児の躰にしても、保健にしても又保育項目の指導にしても尚ほその心身が充分發達してゐない幼児に對するものであるから、その心身の發達段階に照らし、これに即應せしめねばならないことは勿論である。然らずんば却つて幼児の心身の發達を阻害することに成る懼れが多分にあるからである。近時鍊成といふ言葉が、動もすれば誤用せられてゐるから、保育に當つては、この點に充分注意を拂ふべきである。この爲に「指導事項」第三項實地練習の第二號に於て、「幼児ノ心身發達ノ程度ニ應ジテ適切ナル保育實習ヲ爲サシム」に注意を促してゐることは當然である。尤もこのことに關しては、現行幼稚令施行規則第一條に於ても、「幼児ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムベク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ズ」に既に明示してゐる。

又保育に於て、幼児を正確に而も科學的に觀察して、そ

の個性を知ることが肝要である。即ち幼児の長所を緒口にして、その心身を發展せしめんが爲である。幼児もやがては、各自の特質と能力とを最高度に發揮して、國家の要請する方面に活躍すべき任務を負ふてゐるからである。而も幼児に於ても既にその個性の傾向は、或る程度推知し得るものである。従つて「指導事項」第二項の見習に於て、「保姆ノ保育方法ヲ見習フト共ニ幼児ヲ觀察スルコトニ意ヲ注ガシム」に述べてゐるのであらう。勿論舊保育觀の如く、唯單に幼児の個性を發見、助長せしむることに即保育の使命を考へてはならない。前述の如く個性本位の立場は、清算せらるべきであつて、個性の重視といひ、個性觀察、個性調査といふも、それは決して目的論としてではなく、方法論としてあることを誤らぬやう心せねばならないであらう。又「指導事項」にいふ幼児の觀察とは、幼児の個性觀察のみを意味するのではなく、環境による幼児の言行、態度の觀察、男女の性別上をも意味してゐるに解される。然しその中健康の觀察に就ては、既に前述したし、家庭環境の問題

は、後に譲ることにして、男女の性別に關して考へるに、  
幼児後期には、男女性別の相違が稍々著しくなつて來て、  
その生活様式にも若干の異ひが認められるやうになる。從  
つて保育に際しては、男女の性別による相違をも能く觀察  
して、この點に就ても相當の考慮を拂つて指導する必要が  
あるであらう。

次に幼児の言行、態度及健康狀態等は、その家庭環境(幼  
兒の家庭並に家庭を圍繞する環境、從つてその附近、地方  
をも含む)の影響に基つて甚大である。故に保育は、  
幼兒の家庭環境を熟知し、それと十分連絡、協調するの  
でなければ、その眞の効果を擧げることは到底出來ないので  
ある。幼兒の躰に於ても、保健に於ても、保育項目の指導  
に當つても然りである。母親の來園や保姆の家庭訪問等  
により家庭環境を理解知悉するに共に、家庭殊に母親と十分  
連絡して皇國の子の保護育成に當るべきである。母親は幼  
兒の指導、教育に關して、幸ひ關心を有してゐるから、幼  
稚園と家庭との聯絡は、學校に比し、比較的容易なのが普  
通である。家庭並にそれを圍む社會的環境の狀況に基つて、  
幼兒の悪い躰、悪い風俗、習慣、從つて悪い言葉、惡戯、  
俗惡な唱歌等を幼兒が有してゐる場合には、十分家庭と聯  
絡して、早期にこれが是正、遷善を圖り、又不潔、不衛生  
の風があるときにはこれを矯め、健康兒たるやう指導せね  
ばならない。從つて「指導事項」第三項實地練習の第三號に

於て、「幼兒ノ家庭環境ヲ顧慮シ特ニ社會的保健的見地ヨリ  
適切ナル保育實習ヲ爲サシム」を述べてゐる譯であらう。か  
やうな觀點からいつても、生徒をして附屬幼稚園のみなら  
ず、これと環境を異にする代用附屬幼稚園や指定幼稚園に  
於て、保育實習を行はしめ又農繁期託兒所實習を行はしむ  
ることは、有意義であると思ふ。從來の幼稚園保育は、屢  
々幼兒の家庭生活環境と遊離して、動もすれば都會的、高  
踏的、貴族的な抽象的保育を行ひ、これを以て幼稚園保育  
の本領であるかの如く誤解してゐた嫌ひも決して少くなか  
つたのである。かくては幼稚園保育の目標とされてゐる所  
謂「家庭教育の補充」にも貢獻することが困難であり、從つ  
て幼稚園保育の不信任論、更に極端には不必要論さへ提出  
せしむる機縁ともなつたことに、保育關係者は深く自省す  
べきである。又幼兒の防空上の避難、待避、服裝等に關し  
て家庭と十分聯絡すべきことは、新らしい然し急を要する  
問題であることはいふまでもない。

家庭との聯絡は、然しながら單に幼兒の保育にのみ止ま  
るものではない。即ち「母の會」等を通じて、家庭教育の改  
善、母親の皇國母性としての自覺の深化、適正なる時局認  
識、戦時生活の徹底、家庭生活の刷新等にも寄與するにこ  
ろなければならぬのである。かゝる意味での家庭との聯  
絡、母親教育は、母親の教育程度が次第に高まつて來た今

日、保母の殊に若い保母の中々困難な仕事ではあらうが、而も決戦下愈々緊要なる新しい任務である。従つて「指導上ノ注意」第七項には、「家庭トノ連絡ニ付テ指導シ特ニ母親教育ノ緊要ナル所以ヲ知ラシムベシ」ニ注意を促してゐるのであらう。又教育審議會の「幼稚園ニ關スル要綱」の第四項に於ても、「幼稚園ト家庭トノ關係ヲ一層緊密ナラシムルト共ニ之ニ依リ家庭教育ノ改善ニ裨益セシメ、併せて幼稚園ノ社會教育的機能ノ發揮ニ力メシムルコト」ニ述べてゐるのである。即ちこの後半に於て、保母が己が園児の保育に従事するに止まらず、更に社會に進出すべきを要請してゐる。例へば保母が一般幼児の教育相談者、町内會、隣組保育施設又は農繁期託児所の持導者として活動すべきことや、幼稚園の一般幼児への一定期間の公開、開放等も保母の又幼稚園の有つべき新しい任務に他ならないのである。

又保育實習ニ家政科育児實習ミを緊密に關聯せしむべきこと及農繁期保育實習の必要なることはいふまでもあるまい。この中前者に就ては、前述したのでこゝでは省略して置く。後者に就ても、既に言及したが、その保育實習上の地位に鑑み更に追加しよう。農繁期託児所實習により、結局戦力増強に寄與し得るに共に、又生徒をして農村の乳幼児の生活を認識せしめ得るのみならず、決戦下、勞力不足ニ食糧増産ミの二律排反を解決せんニ日夜健闘してゐる農

村の生活狀況をも知らしめ、保育の意義及眞髓を把握せしむることが可能であらう。又そこには農繁期に眞に手足纏ひになる乳兒及孩兒も、相當數受託されてゐるから、育児實習の點からも有益なのである。要するに農繁期託児所實習の保育實習上の意義は、一層高く評價されて然るべきであると思ふ。故に「指導上ノ注意」第六項は、「農繁期保育實習、家政科育児實習等ト緊密ニ關聯セシメテ保育ノ要諦ヲ會得セシムルニカムベシ」ニ強調してゐるのである。

### 七 七 七 七 七

以上新制師範學校に於ける保育殊にその保育實習の要項を中心として、これが解説を試み併せて私見をも若干述べて來た。然しその中、「指導事項」第一項の指示及講話の内容に就てのみは、當然生徒に指導すべきことであつて、特に保育刷新の見地から説明を加へる必要を認めぬを考へたので、私は故意に省略した。要するに以上は、從來の我が國幼稚園保育の刷新せらるべき方向を示すものとして、大體に於て至當であると思ふ。蓋し現行幼稚園法規に於ける保育理念の缺如ミ内容及方法に互る不備ミを補充し、進むべき道をかなり明確に指示してゐるからである。然しながら本要項は、保母たることを必ずしも目標としてゐない師範學校生徒の保育實習に關する指針に過ぎず、又前述せる如く保育刷新の制度論には觸れ得ないこと元より當然であつて、我が國幼稚園保育の全般的刷新の見

地からは、これを以て尙ほ決して完璧なりきいひ得ないのである。近き將來改正せらるべき幼稚園法規に於ては、更にそれ等に關しても詳細に且つ具體的に規定せねばならぬであらう。

私は、我が國幼児保育の全般的刷新の立場から、師範學校女子部を含めての今春改正を見た女子教育を保育との聯繫強化に今夏決定せられた「學徒戰時動員體制確立要綱」中に於ける女子學徒の保育動員を以て、決して満足するものではなく、戰時下保育の國家的重要性の強調せられてゐる今日こそ、幼児保育機關自體の理念、内容、方法及制度に互る全般的刷新を保姆養成機關の整備充實を要求するものである。かくて始めて幼児保育機關は、國民教育體系の最下部構造として、國民教育の根基に培ひ、皇國發展の礎石たり得るに確信するからである。而してかやうな意味での我が國幼児保育機關の根本的刷新振興方策に關しては、教育審議會に於ける「幼稚園に關する要綱」並に「同說明」、大政翼贊會の政府への上申「國民の教養鍊成に關する調査報告書」等に於て、假令不備さはいへ、部分的には示されてゐるし、私も亦屢々これに論及してゐるので、それ等を参照せられたい。而して教育審議會は、國民學校、師範學校及幼稚園に關する刷新案を一體として政府に答申したが、この中前二者は既に改正を見たので、残るところは幼

稚園のみである。當局は一日も早く幼稚園の全般的刷新を斷行せられんことを切望する。尤もかくはいつても決戰態勢下に於て、戦力増強上の燒眉の急に應ずべき當面の保育對策に就ては、直ちにこれが實踐に移すべきである。然しながらこの場合に於ても、國民教育の根基としての幼児保育に關しては、その當面の急に應ずるに共に又常に國家百年の大計に顧みるのでなければならぬであらう。

これを要するに新制師範學校に於ける保育並に保育實習に關する指針に對して、私は大體に於て贊意を表するに共に師範教育關係者は、これが適正なる運用を爲されんことを、又一般幼児保育關係者も、これを大いに參考せられ、決戰下保育報國に一路邁進せられんことを切に期待するものである。

完(昭一八、二、三)

# 幼児の科學疑問調査 (三)

## 六歲幼兒の部

東京都立武藏高等女學校

有元石太郎

こゝで云ふ疑問とは科學に關する疑問で、六歲幼兒とは數へ年齢を指すのであります。筆者は前回に述べたと同様の手段方法によつて、六歳の幼兒の口から偶然に出た疑問を記録しておいて集録し、或は集録して頂いたのが次の例でありまして、その内○印のものは殊に御注意して頂きたいと思つたものであります。

(一)人體に關する疑問

○一、なぜ人には男と女があるの(男兒一人・女兒一人)

一、お母ちやんはいつ産れたの(女)

○一、なぜお父さんは赤ちやんを産まないの(女)

一、女はなぜスカートをはくの(女)

一、大學生はなぜ角帽をかぶるの(男)

一、なぜ頭の毛は黒いの(女)

一、なぜ人には手があるの(女)

一、なぜ指には爪があるの(女)

○一、耳はどうして作つたの(女)

一、爪はどうして生えたの(男)

一、おできはどうして出來たの(男)

一、なぜ人は病氣になるの(男)

一、肩を叩くとどうして疲れがなほるの(女)

一、どうして夜だけ眠くなるの(男)

一、玉ねぎを切るとどうして眼が痛むの(女)

一、どうして汗をかくの(女)

一、なぜ人は着物を着るの(女三人)

一、なぜ暑いと帽子をかぶるの(女)

一、蜂に刺されるとなぜ痛い(男)

一、人はなぜ生きてゐられるの(男)

一、私が死ぬとどこへ行くの(女)

一、鳥には羽があるのに人間にはなぜないの(男)

一、鳥は飛べるのに人はなぜ飛べないの(男)

(男)

(二)天文に關する疑問

一、お日様はどうしてあるの(女)

一、お日様はどうして沈むの(男)

一、お日様はどうして暑い(女)

一、お日様はどうしてあかるいの(女)

一、どうしてお日様があるの(女)

一、お月様はどうして出るの(女二人)

一、お月様はなぜ黄色いの(男)

一、お月様はなぜ大きくなつたり小さくなつたりするの(男)

一、お月様はなぜ朝は白くなるの(女)

○一、お月様はなぜ私と一緒に歩くの(男)

一、お月様はなぜ落ちないの(男)

○一、お月様はお空で何をしてゐるの(女)

○一、お星様はなぜ夜だけ出るの(男二人)

○一、星は生きてゐるの死んでゐるの(女)

一、空はなぜ高いの、行つて見たいなあ(男)

一、空はなぜ青いの(女二人)

(三)物象に關する疑問



一、電車はどうして動くの(男)

一、電車の上の火花はどうして出るの(男)

(男)

一、飛行機はどうして飛べるの(男兒二人)

一、うちわであほぐとなぜ涼しいの(女)

一、なぜうちわであほぐの(女)

一、自動車が通つたあとなぜほこりがあがるの(男)

一、水を沸かすとどうしてお湯になるの(女二人)

(女二人)

一、どうしてガスが出るの(女)

一、どうしてゴムは伸びるの(男)

一、電氣はどうして明るい(女)

一、あんな小さい電燈からどうして明るい光が出るの(男)

一、どうして蓄音機が歌ふの(男)

一、ガラスはなぜすき通つてゐるの(男)

一、縋帯はなぜ白いの(女)

(四) 地文氣象に關する疑問

一、どうして雨が降るの(男兒二人、女兒一人)

一、

○一、雨がやんだのは空に水が無くなつたからなの(女)

一、川の水はどこから流れて來たの(男)

一、井戸水は汲んでも汲んでもあるのはどうして(男)

一、どうして水がはるの(女)

一、どうして山や川があるの(男)

一、雷はなぜ鳴るの(男)

一、雷はなぜ冬鳴らないの(女)

○一、風はどこから來るの(女)

一、暴風雨はどうして起るの(男)

(五) 動物に關する疑問

一、猫はなぜ鼠をとるの(女)

一、猫はニャンといつてなぜお話が出来ないの(男)

一、猫はおなかをさするとなぜ體を丸くするの(女)

○一、狼はこわいのに造らなければよいのに(女)

一、なぜヘビは長い(女)

一、どうして魚は泳げるの(男)

一、ナメクジはなぜお鹽で溶けるの(女)

(六) 植物に關する疑問

一、なぜお花に花びらがあるの(女)

一、なぜお花には色々な色があるの(女)

一、ヒマワリは私の背を越すから(女)

一、レンコンになぜ澤山穴があるの(女)

一、なぜ木は伸びるの(男)

一、なぜ土の中から木が出てくるの(女)

以上六歳幼兒の科學疑問の類例を列擧しましたが、假りに五歳頃迄の幼兒を初期とし、六・七歳頃を後期とすれば、初期幼兒の質問と比べて後期幼兒の質問は内容も豊富になり、範圍も廣くなつてゐます。が、やはり前期と同一の質問も勿論見られますけれども、彼等の要求する回答は一段の飛躍を來してゐるのであります。その内容に理論的の答へを望み、初期と格段の差があるのであります。

さて吾々は幼兒から以上のやうな質問を受けた時、これに對してどれだけ科學的に満足な答へを與へることが出来るかは非常にあやしく、その疑問のうちには現代の科學では回答不可能の問題もあるのであります。然しそれは大人の世界から見たことでありまして、幼兒は幼兒らしい回答を要求してゐて決して大人のやうな回答を望んでゐません。六歳頃になると彼等は論理興味時代に入つてゐますから、「なぜ」といふ理由を知りたがるのであります。従つて大

人は始めてその事物現象の理由を何等かの形で、説明してやらなければなりません。

しかし同じ六歳といつても、精神年齢が五歳位の者もあり、七歳位の者もありますから、その點を判断して取扱はなければならぬのでせう。

今假りに「なぜ人には男と女とがあるの」と、六歳女兒が質問したとします。これに對して眞實の科學的回答が出来る者は學者といへどもありませんでせう。この場合幼兒に對して「それは知りません」と答へるのもこの時代の子供に對し、決して策を得た賢明の方法ではありません。

「それは神様がおつくりになつた」といつて格上げしても、「それはネズミがネンドをこねて作つたの。」と格下げしても彼等は同じやうに満足するのでありますがこのやうな非科學的な答へをしても、彼等の科學心を阻害することはありません。この時代の幼兒は、この答へではありません。この時代の幼兒は概念が亂置されて、全く混淆するのでありますから、試みに逆に子供に質問してみますと、どんな雜問でも答へます。混淆でも亂置でも差支ありませんから、むしろ出來

るだけ彼等に考へさせ、その亂置を正常化するやう取扱ふのが本年齡期幼兒科學疑問

## 幼稚園への希望

戰局が益々烈しくなつてまゐりますと、銃後の活動も一層活潑になり、従つて各家庭で子供のために費ひやすことの出来る時間もだん／＼豊なくなつてきます。

このやうな秋にあつての幼稚園教育は、平時よりもすつと責任が重大であります。

今までは、國民學校になれば、教育全般を學校まかせにしすぎるお母さん方も、幼稚園時代には、家庭で教育する方を主としてゐる傾向が強いやうでした。

しかし今では、却つてこれが反對になり、幼稚園時代こそ、子供の教育全部を幼稚園におまかせしてゐるやうであります。

これは人不足の上に、配給などで、ごこのお母さん方も家庭にちつとしてゐられなくなり、又家にあつても、ちつと子供をみつめて暮すことがむづかしくなつてきたから

取扱ひの要諦であります。

八

## 波多野勤子

であります。

毎日の生活におはれてしまつて、子供たちは、病氣さへしなければいゝ、といつた具合で放任されてゐるのであります。

しかし、教育は小さい中の方がよけい大切なことは申すまでもないことで、小さい間を無方針で育てられた子供は、これを立派な性格な人格に築きあげるのに非常に手数がかゝります。身體の方面でも、丈夫だと思つて、うか／＼育てた子供が、成長するにつれて、却つて弱くなつたといふ話は、あちこちできかされます。私自身の経験でも、小さい時に手をぬいた——祖母が主として育て、くれた子供は、今だに、一番に面倒がかゝります。

そこで、現在のやうに主婦がいそがしい時には、幼稚園の先生方が、一層積極的に

指導して、第二の國民を立派に育て、行く必要があります。

さて、それではどんな風に指導して行くかといふと、私はまづ三つのことを第一にしていたゞきたいと思ひます。

### 第一は健康の指導

(1) 防空服裝になつたため、小さい子供たちも非常にモンペが多くなりました。これは靴下の心配も少ないし、さむさに向かつて、暖かである。といふ特長もあります。が、又一面皮膚を弱くする。といふ缺點があります。

ですから、陽のあたる時は、幼稚園で、モンペをぬかして、せいふ日光浴をさして下さい。

(2) 食糧が配給になつたため、子供たちの營養が不十分になりがちです。その上なほいけないことは、營養分のかたよることです。あるものを使ふのだから、いろ／＼注文されても困るといはれるお母さん方があるかも知れませんが、工夫をすれば、ま／＼活かせる營養分が澤山あります。さういふのをお母さん方に指導すること。それから校醫と相談して、カルシウムの足り

ないお子さん、脂肪を必要とする人、又蛋白質を多くとる方がよさうなお子さんなどは、殊に氣をつけて、配給量の中から、なるべく多くその不足のものを、そのお子さんにふりむけていたゞくやうにし、おべんたうもその見地からみて行くやうにしたと思ひます。

これは、個人的に始終注意して行かなければならないことなので、その面倒もさこそと思ひますが、これからはまづ身體です。そして、戦争はいつまでつゞくかわかりません。配給品もいまよりよくなることは當分のぞめません、さうすれば、現在での一番いゝ方法は、このやうにして幼稚園の先生方に指導していただくことであらうと思ひます。

### 次に性格教育

これも今までのやうに、お子さん方の長所を生活の中で自然に伸ばす、といふだけでなく、國民として必要な性格を積極的に指導していただくと思ひます。

たとへば1ものを正確につたへること、2父母や先生から言つてはいけない。といはれたことは、決して、友だちにしゃべら

ないこと等です。幼稚園では、家庭との連絡は、たいいてい、紙によるか、黒板によるか、宛に角、お子さんの口だけを通じてすることはよくないのです。これは、お子さん方にはまだむりだといふ見地からでありましたが、これからは、どんな時にどんな用事を子供に直接いひつけないければ、ならないかも知れません、そのやうな時の訓練に、幼稚園時代から、家庭へのことづて練習機關として、子供たちに、はつきり、ものを他へつたへ得る習慣をやしなつてほしいと思ひます。これは復唱の形をとるのがもつともよろしく、あらかじめ家庭と連絡をとつておうちへかへつたへた言葉や翌日幼稚園へ報告させるやうにして、短文から次第に多少複雑なことまでも、つたへられるやうに、きたへたいと思ひます。

又この反對に、「言つてはいけない」といはれたことは、やたらにしべらない習慣もぎひつけないものです。子供のおしやべりから、ヒントを得たこといふスピーチもよくまします。

これの指導は、一組の中で幾人かちがつたことを、先生が話してまかせ、しゃべ

つてはいけませんよ、と注意しておきます。それがどの程度まもられるか、又どのやうな時にその約束が守られ難いか等を研究して指導していきます。

もうちき遠足をする。とか、いつ何日に、お菓子をおあげる。などといふ話は、きつと子供たちにとつておしゃべりしたい内容でせう。どんな内容でも、「しやべつてはいけない」といはれたら我慢してしやべらないやうに子供たちを育てたいものです。これは國家的立場から大切なことです。

第三に防空の實際指導です。いつ空襲があるかわからない。といふことは、いつにもいはれてゐますのに、子供たちはその時の處置を殆んど正確に知つてゐません。私は先日近所にすむ幼稚園へ行つてゐるお子さんに、

(イ)外にひとりである時、空襲警報になつたらどうするの。

(ロ)「お友達のところへ行つてゐる時、警戒警報になつたらどうするの？」

ときいてみましたが、兩方ともに正しい答をしたお子さんは六七人の中、一人もありませんでした。このお子さん方は、四箇

所のちがつた幼稚園のお子さんで、その一人々々に、お友だちのゐないところまでいたのでしたが誰もいゝ答をしつてくれなかつたのです。

子供たちは、空襲警報と警戒警報との區別をはつきり知らないのです、イの問にも、ロの問にも、「すぐ倒れてしまふ」とか「すぐ防空壕へはいる」と答へたり、又兩方の答へに對して、「うちへかへること出来るわ」とすましてゐたりします。

こんな時ですから、あんまり遠いところのお友だちへは、あそびにいかないやうにするのも必要ですが、警報をよくきゝわけて、子供ながらも、どうすべきだといふこ

## こゝろばのしつけ

いつもびつくりさせられるのは、幼稚園や保育所に行つて、そこの子供たちの言葉が、非常にみだれてゐることです。

言葉は性格をつくり、言葉は生活を導くものであることを思ふにつけ、幼児期の子

と位は、よくおぼえさしておいてほしいと思ひます。勿論これは、まづお母さんのなすべきことなのですが、うつかりしてゐるお母さん方も多いやうですから幼稚園の先生の方でも、その時にあたつてまごつかないやうに指導していただきたいと思ひます。

以上、いろ／＼とやつかないな要求ばかり出して申譯ないでのごさいます、子供たちの將來のため、又十年後二十年後の大日本のために幼児の教育の中樞となつていただくたく敢へて御願ひする次第でござい

## 金丸光

供たちには、あらゆる躰のうちでも、特に、正しい言葉を躰けて行くことに力をつくさねばなりません。

×

母は、絶えざる愛情と根氣づよい努力で、

一つ一つと新しい言葉を、わが子に覚えさせ、悪い言葉から、みだれた言葉から子供を守るため、心を碎くのです。

よい家庭——それは、絶えず正しい、美しい言葉が、音楽のやうに流れてゐる環境をいふのです。

子供を幼稚園や保育所に出したために、子供が急に言葉が悪くなり、粗野な下品な言葉のかす／＼を口にするやうになつたとしたら、どんなに失望し、落膽するでせう。

「うちの子は、幼稚園に行くやうになつてから、とても言葉が悪くなりました」

この言葉はよくきく言葉であり、その言葉には、自分の子供だけをよくしようとする個人主義のほひが感じられるけれど、さうしたことをきくのは、保母には何よりかなしいことです。

×

「幼児は満五歳にして、學齡に達す」と、大日本文政報國會は、満五歳入學を協議しました。これについて、愛育會の山下俊郎氏は、「満五歳に達すれば幼児は既に共同生活に耐ふ」と答へてゐられます。

學徒は銃をとつて戦野に立ち、國民學校

高學年兒童は、一年の三分の一の日數を生産勤務に従事してゐる現在、國家百年の大計を思入は思ふほど、さし迫つた今日只今の戦局に勝ち抜きはなりません。保育も亦、戦力増強の保育であり、勝ち抜くための保育でなければなりません。

教育の戦時非常措置として、教育期間の短縮が叫ばれてゐる時、私たちは一日も早く幼児を、しつかりした魂と體の所有者に育て上げねばなりません。

満五歳にして既に學齡に達す。かうした叫びがきかれる時、幼児をいつまでも甘やかし、愛玩の對象として扱ひ、従つて言葉の弊の點でも、言葉の修練といふことに意を用ひず、舌のよく廻らぬ頃に覺えた可愛らしい言葉をそのまゝ、六つ位の子供に使用させてゐるのもあります。

卑近な例ですが、保母自身「落ちた」といふ正しい言葉を「落つこちた」といふやうなのはまだいい方で、「いらつしやい」といふのを、「いらつちやいな」といふ保母があるのには、啞然とすることがあります。

かうした保母のうけもつ子供には、大抵、長上に對する敬語の使用が躰けられてゐな

いやうです。先生に對する言葉づかひも、そんないで、同輩に對するやうに

「先生、こつちへお出でよ」

といつたり、それに對して、保母も

「今行くわよ。ちよつと待つて、ね」

といつた調子です。

一體今迄の社會一般が、長幼の序をみだし、尊敬すべきものを尊敬しないといつた、非常に悪い風潮をもつてゐたと思ひます。尊敬のない所に、指導や教化の實が上る筈はありませぬ。

軍隊が何よりも先づ要求してゐる絶対隨順の精神は、幼兒期に於ては保母を師として絶対隨順することから始まるのです。その意味から、保母は、心に誇りと自覺をもち、自らの職に、權威をもつために、絶えざる修養と努力が必要とす。

×

こゝでちよつと、敬語について思ひ出すのは、幼稚園に於ける叮嚀語の過剰といふことです。やたらにおの字をつけて、おピアノ、おかばん、お下駄など、おの字さへつけばいい、やうに思つてゐるやうですが、かうした言葉のもつ甘つちよろさ

は、自由主義家庭の奥様のさあます言葉と好一對です。

×

敬語の躰に次いで、明るい、力強い言葉、迫力のある言葉の錬成といふことを私はほしいのです。

發音を正しく、明瞭に。して、力強く言葉に綴らせることは、單に言葉だけでなく、その性格を鍛へます。ぐづ／＼した不明瞭な言葉を使つてゐると、性質までまき／＼しない子になります。

昔、武士の子を使ひに出す時には、その使ひの言葉の文句を母が復唱させ、一句々々母が矯め直し、それによつてその子の言葉だけでなくその氣質を鍛へてゐました。

今では、軍隊ばかりでなく、既に國民學校でも、所によつては、歸る時など「何の某歸ります」といひ、仕事を命ぜられた時でも、復命復唱の訓練がなされてゐます。はげしい氣魄と、明るい日本の性格とを練り上げ、いぢけた卑屈な根性を叩きつぶすには、かうした方法も必要です。たゞそれを幼児の場合どういふ風にして効果あらしめるかが保育者への課題となります。だがこゝで

注意すべきは、この「精神」を忘れないたづらにその表面にあらはれる「形式」だけにとらはれて、説教じみた大人くさい言葉を口にし、身につかない形式的動作をする妙に子供らしさを失つた、夢をもたない、素朴な野性の美しさをもたない子供に育て上げてはならないことです。

×

それから、面白いことには、言葉の躰の行きとどかない所では、子供たちが實に冗舌で、のべつまくなしにしゃべり散らし、雑音と喧嘩のおそるべき集團となつてゐるこゝです。

言葉の躰に附隨して、沈黙の躰も幼時が必要で。

私はいつか岸邊福雄先生の幼稚園を見せたいといふことがありますが、そこで、今まで見たほかの幼稚園とちがつたところを見せて貰つたことがあります。それは、短い間でしたけれど、子供たちがびたりと鳴りなしづめ、しんとしづまつた沈黙の一時、目をつむれば針の落ちる音ひとつしな静寂さが幼児たちの上を流れ、その沈黙静寂のたのしさに子供たちがびたりと

様な思ひを感じさせられたことがあります。

保母の手が少く、ともしれば、一人の保母で二人も三人もの役目をしなければならなくなる現状では、とかく子供たちが、喧嘩々たる喧嘩集團となつてゐる所もありますが、さうした場合、保母のすぐれた保育技術が必要になつてきます。

×

最後に、これは注意ぶかい保育者ならみんな氣がついてゐられるでせうが、それは、言葉の躰の上に於ける繪本の犯罪といふこゝです。繪本の文は、子供たちの日常生活を指導する模範的の言葉であつてほしいと思ひます。そして保育者はその繪本に使用された言葉を、正しい發音で、ぐん／＼強力に指導してゆくことが必要です。その意味で、國民學校の教科書は實によく出来てゐます。保育者も、もう一度、國民學校の最近の教科書を、この意味から見直してほしいと思ひます。

# 野外保育の記録

品川戦時託児所 齋藤八重子

日本は戦つてゐる文字通り國を擧げて  
!!、國民皆勤が指導者階級によつて提唱さ  
れると否とに關らずアツツの勇士、サダル

カナルの勇士の奮戦に、ブーゲンビル島航  
空戦の戦果に應へる爲銃後の婦女子は老若  
を問わず國家目的の中に溶け入らずには居  
られないであらう。それら國民の情熱の結  
果生じて來る問題は乳幼児の保護である。

學童ならば或程度保身のすべもあらうに  
乳幼児にはおぼつかない事である。それ  
ら子供等は街に放り出されてゐる。それ  
も畸型的都會人口密度は空閑地の時價をはね  
上らせ、猫の額の如き空地すら野菜畠と化  
し子供等は日増しに路面へ〜と追ひやら  
れて來る。その爲の災禍は警視廳の統計を  
俟つまでもない。

東京都では昨年春より幼稚園及託児所の  
利用範疇外の幼児を對象として戦時託児所  
の保姆が中心となり勤勞奉仕員(女學校の

最高學年又は婦人會、親切部隊)の援助を受  
け野外鍊成保育を行つて來た。

尙品川戦時託児所では都立第八高女の御  
好意により家庭科及研究科の方々十一名の  
奉仕を頂く事になり、場所の選定、地元町  
會との交渉、野外保育の趣旨期間場所等を  
知らせる爲の同覽板風のプリントを各隣組  
へ廻して頂く他方、班別旗、徽章の作製、折

り紙、鼻紙、鼻緒、針糸、紙芝居等々細々  
とした道具を取揃へて準備をするのも託児  
所の嫁入の様に忙がしい。更に女學校奉仕  
班の方々を中心に子供の身體的精神的取扱  
に對し檢討しあひ技術的な遊戯唱歌折り  
紙、團體遊び自由遊び等野外保育期間中に  
行ふ豫定のものや傳授し用意萬端をど、の  
へ開所の日を待つのもほのぼのと胸のとき  
めく思ひである。

さて紙數の許される範圍内に野外保育日  
誌を拾つてみよう。

十一月十二日 金曜日 C十五度

野外保育始まつてより三日目、午前九時  
五分の班別旗の下にもう百名近くの子供が  
集つてゐる。登所道中隣組を單位とする世  
話係のお母様の顔も晴々として楽しさう。

笑顔で飛んで來る。お早ようござぬます  
〜のつぶてもこの仕事をやるもののみ知  
る醍醐味、出席をとれば同日も百二十名、  
朝禮も随分巧くなつた。第一日は結んで  
開いてすらまるで啞の行列の様だつたのが  
もうすつかり自分のものにして元氣よく樂  
しく歌ふ。

「ソトカラカヘツテウガヒガラ〜」

「タベルマヘニハテラアラヘ」

「スキキラヒスルコハヤセボウズ」

健康カルタも秋空のもと幼児等の唱和す  
る聲になにか尊いものを感じる。紅葉の歌、  
遊戯律動手拍子等大分正しく出来る様にな  
つた。今日は二人で組んでやらせてみる、  
變化があつて面白相なれど廻るころが出  
來ない子供が大分ある。奉仕班の方のニコ  
〜、象さんの童話に暫し興す。今日は薩摩  
芋が手に入つたので町會の婦人部の方々が  
勞力を提供されて美味しく煮される。タペ

ルマヘニハテヲアラヘと地で行かせる爲に今日は特別世話係のお母様も出勤奉仕班の方々と手洗ひに大童、各班ごとに下駄を纏めて集會所に坐る、子供等はお客様に行つた様に緊張する、兵隊さんとお百姓さんに感謝を申し上げ頂く。かうして午前中の保育を終る(註おやつを午後三時にしなかつたのは野外の關係午後より學童も多く學童を刺戟せぬ爲)

午後中食を済した幼児は一時頃徐々に班別旗のもとに集つて来る各班擔當の奉仕班員と共にそれ〴〵遊び興じ二時午後の集會を行ふ。

紙芝居ピエタ兎に見入つてゐると突然近くに出火、お母様方は武裝してかけつけて来る。先生子供どう致しませう、大丈夫々々お子様方は私達で守りますから早く消火よく現場へどかけつけてゆく。火事の言葉なきいた時子供等はどつとさわざさうになる。大丈夫々々先生と一緒だからといへば幸火事場を背に向けておつたので二三人の氣弱い子供が泣き出したのみで落着いて紙芝居を見る。

紙芝居後は圓形に團體遊びの豫定なるも火勢未だ衰へずムク〴〵黒煙を噴上げてゐるのをみせたり圓形に擴がつて仕舞つては收拾に困難と縦列のまゝ童話團體遊びを行ふ。かけつけて来る蒸氣ボンブの音で色めくも一とき、どかくする事一時間餘漸く煙は白くなる。

世話係のお母様方も徐々に子供を引きとりに来る。小さい子供がフラ〴〵出てこなかつた爲消火活動が思ふ様に出来ました、と大事にならずに何よりでしたと答へる一面、若しこれが第一目であつたらと……肌えに粟を生ずる思ひ。かうしてこの一日も終る。

十一月十九日 金曜日 C十度

最終日 閉所式後集會所に於いて参加保育兒のお母様方の母の會を行ふ、出席者約五十名、區の厚生課長、係長、町會側代表、方面委員の方もお見え下さる。

奉仕班の女學生側よりの感想では、我儘の子供が一番問題となる。空襲時に備へ隣組單位としての團體訓練の必要、次代東亞の指導者たらしめる爲に積極性の子供を切望すれば母親側より、短期間の野外保育に

もら拘ず效果の著しさに驚嘆なし長期に亘つての繼續を要望

外に遊ぶ事の出事なかつた子供が近所の子供と遊ぶ様になつた。

スキキラヒスルコハヤセボウズと先生がおつしやつたから僕なんでも食べるといふ様になり食事教育が大變樂になつた。火事の時には本當に思ふ様に活動が出来てありがたかつた。

先生方の御苦勞に報ゆる爲になにかの方法で自分達母親の手でこの仕事を續けたい。

等々素朴なお母様方の感謝の表現はつくるを知らぬ様子。最後に當所長高橋重先生

は 國運隆々として世界に誇る今日の日本を築きあげましたのは世々代々我が子を愛し育みつゝ、繰り返した日本のお母さん達であります。然しその長い間の限りなき慈愛と隠れた努力に對してお母さん方に酬ゆるところが如何に少なかつたかは男尊女卑の考へ方から参ります母性の處遇に對して無關心であつた過去の歴史が明かに物語つて居る所であります。然るに最近にな



りまして人口の増殖即ち將來お國の役に立つ立派な働き手を澤山生めよ種やせの建前から母性保護の問題が取り上げられ殊に日支事變から大東亞戰爭の今日朝野を擧げてお母さんを保護せよの聲が高く唱へられる様になりましたのは誠に欣ばしい次第であります。

今日の子供が大君の子、國の寶であると同様にお母さん方も大事なお國の母でありますからその御心持御覺悟をもちまして將來の日本を強くする優れたお子さんに育て上げて雄々しい日本の母の責務を果して下さる様御願ひ致します。の激励の言葉に日本の母性としての喜びを倅を滿面に漲らすのであつた。私は一年間約五回の野外保育を受持つて來た山の手の所謂インテリ層の中心にある寺院の境内に商人街の中心にある寺院に、遊廓に取巻かれてゐる寺院の境内に、又この度の様に工場の騒音と省線東海道線等賑やかに往來する鐵道線路とに挟まれて營みをもつ官舎の中にあるさゝやかな廣場にと、場所を變へて行つて來た。新しい場所に新しい幼児が私達を俟つてゐた、居を移す毎に孟母三遷を痛切に感じさ

せられるのであつた。

幼児のもつ本質的の美しさ伸びんとする逞しい力等はどの場所にもたのもしく感じたものゝ、環境のにじみ出す子供の姿に争はれぬものを感ずるのであつた。

インテリの獨善と無氣力個人主義、商人的腰の低くさと大衆性且協力性、遊廓街の子供の言葉の猥褻と早熟、かうも違ふものと果然眺めるのであつた。

## お話遊び

東京 番町幼稚園 徳久智江子

お正月を過ぎると、追ひかけられる様にあわたしく日があつて、幼児が國民學校へと進む日も間近になりました。體も、心ものび／＼と成長し、遊びも一段と充實して來た此の頃、遊びの一つの材料として此の「お話遊び」を作つて見ました。

### 白ちやん兔

これはお母さんの言ふ事を聞かなかつた兔が、散々な目にあつて、それから「ヨイ兔」になるといふ筋で、時間は約十二分

今期の如く職を同じ處に奉じ且同程度の

住居生活を維持する官舎特有の組織とそれへの無條件服従と獻身的協力、更によりよき方向へ進まんとする逞しい意欲は幼い子供の世界からも、はつきりよみとれるのであつた。

私共は今までになく、これら團體への愛情と希望と去り難き思ひを抱きつゝさよならをするのであつた。

位と思ひます。

登場人物

お母さん兔：一人

白布の鉢巻に耳をつけ前かけを掛けスカートをはく

子供の兔：五人

同様に耳をつけチャン／＼と走る

蜂：……四、五人

背中大きく羽根をつけ頭に茶色の帽子をかぶる

蕪：……十人二十人

赤と白の帽子の上に蕪の葉を立ててかぶらせる

唱歌隊：二十人位

準備

背景 第一幕 鬼の家の室内の感じ、大

きい窓、時計等を作る

第二幕 燕の畑の所、雲を三つ位

はり、樹を二三本置く

その他 椅子 三脚

繪本 玩具 編物用糸と針等

第一幕 鬼の家

室内の左の端で、お母さん鬼が編物をしてゐる、其の反対側で、子供の鬼が繪本を見たり、積木で遊んでゐる情景で幕が開く、幕のあくのに合せて唱歌を唱ふ。

長いお耳に まつかなぎ目

五匹の鬼の 赤ちやんと

母さん鬼が 居りました。

今日はホカ／＼よい天氣

お入つは何にしませうと

母さん鬼は おつかひに

母さん鬼編物の手をやめて、立つて床をトシ／＼とたたく。これは子鬼をよぶ合圖、子供の鬼は急いで一匹づつ母さん鬼の所にゆく

イ「お母さん何ーに」

ロ「何か御用ですか」

ハ、ニ、ホ「お母さんなに」 皆お母さん

のそばによる

母「お母さんはね、これからお使ひに行きますから皆おとなしくお留守番してゐるん

です」

一同「はい」

ハ「お母さんお土産買つて来てね」

ニ「僕は人參ッ」と

ホ「僕にはキャベツね」

ロ「私はおからがいゝわ」

イ「僕はかぶね」

母「ハイ／＼皆の好きな物を買つて来ませうねあゝさう／＼ あのお爺さんの畠に遊びに行つてはいけませんよ」

一同「はい」

母「白ちやんもわかりましたね」

ホ「はい、分りました。」

母「じゃ……行つて来ますよ」

一同「行つていら おじぎをする、母鬼を遊つて行く戸口の所でもう一どおじぎをする。」

一同「お母さん行つていらつしやい」

母さん鬼退場、子鬼中央にもどつて

イ「お母さんはお出かけになつたし、何して遊ぼうか」

ロ「かくれんぼしませう」

ハ「それがいゝわ」

ニ「それがいゝ／＼」

ホ「じゃー僕 鬼にならう」

イ「だめ／＼、じゃんけんで鬼をきめるんだよ」

じゃんけんぼんよ／＼

じゃんけんぼんよ／＼

ハ「おつ お兄ちやんの鬼よ」

イ「僕の鬼かい、いゝよ さあ數へるよ」

ロ「十數へてね、さあ皆早くかくれませう」

(イ「鬼中央で目をふさぎ數へる、他の鬼すまな所へかくれる。')  
イ「一つ二つ三つ……十、もういゝかい」

一同「もういゝよ」(イの鬼皆をさがす)

イ「見つけた／＼ちーちやん見つけた。皆ちーちやんの鬼だよ」

一同「かくれた所からでてく

ろ「さあ數へますよ。一つ二つ三つ……十、もういゝかい」

この間に又かくれる。

一同「もういゝよ」

ロ「あつ白ちやんみつけた。今度は白ちやんの鬼よ」

イ、ハ、ニ「白ちやんの鬼だ。／＼」

ホ「僕の鬼 つまんないな！ 今度別の事しない？」

ニ「遊戯なし様」

ロ、ハ、ニ「えゝしませう／＼」

ホ「何の遊戯がいゝかな」

「い、ビョン〜、兎がいゝや」

ホ「じやー僕が唱つてあげ様」一匹が唱ひ、他の兎は遊戯をする

ビョン〜。兎はなぜはねる。

なぜだか知らないはねじまん

月夜の晩なら山行つて

七つの谷まではねて行く

谷間は深かる月夜でも

ビョン〜はね〜どこへ行く

どこへも行かない、はねじまん

ビョン〜はね〜又かへる。

「い、あゝお腹がすいた。」

「い、今にお母さんが お入つ買つていらつ

しやるよ」

ロ「さうねえ」

ハ「待遠しいわ」

「い、僕一寸行つて見て来るね」戸口の方へ見にゆ

「い、まただねえ」

ホ「ねえ、あのお爺さんの 島の蕪、とつても

おいし相になつてたよ、ちーちやん一寸

「行つて見ない」そつとミチヤンに言ふ

ロ「えゝ行つて見ませうよ」

「い、だめ〜、今日は家に居なくちやいけ

ないんだよ」

「い、お母さんにお約束したんですもの」

ホ「だつて僕、お腹がペ〜なんだもの、

もう遊戯なんか出来ないや」

「い、じやあ ほかの事して遊ばう」

ホ「いやだー ねーちーちやん行かうよ

〜」

ミチヤンを連れてかけ出す、他の兎あわてて引

「い、ハ、白ちやん 行つちやーだめ〜」

「い、お母さんが心配なさるよ」

皆が引き止めるのをふり切つて、二匹はかけ出し退場

「い、ロ、ハ、どう〜行つちやつた。」

「い、大丈夫かね〜」

「ハ、困つた事になつたねーお兄ちやん」

「三匹が中央に集つて騒々みをして考へてゐる。」

### 第二幕 蕪の島

背景第二を用ひ藪になつた子供、前に二人十三人位

づつならんですわる、左手から二匹の兎が来る。

ロ「やつとお爺さんの島に來たわ」

「い、やあー蕪がおいし相になつたな〜」

蕪「蕪さん一つ下さいな」

竹の子一本チャウダ、ミ言ふ遊びがあるが、その調子でいふ。

蕪「まだ根が生えない」

「蕪さん一つ下さいな」次々ミ一株つづの蕪の前

蕪「まだ根が小さい」

「蕪さん一つ下さいな」

蕪「蕪さん一つ下さいな」

蕪「葉つばはどれも蟲だらけ」

蕪「蕪さん一つ下さいな」

蕪「もうかたくて食べられない」

ホ「な〜んだ、いち悪たな〜、よしかたたくつてかまはないから食べちまほう」

二匹の兎しやがんで片はしから蕪を食べるまねをする。その時蜂がやつてくる。

蜂A「おやー此の頃よく島を荒しに來る兎が又やつて來たな」

B「お友達を蕪を食へに來たんだよ」

C「いたづらな兎だねえ」

P「よ〜し皆で一つこらしめてやらう」

A「どころで、どうやつていぢめ様か」

B「飛んで行つて、此の針でチク〜刺してしまほう」

C「よし、それがいゝ〜」

一同「一二三、ブーン〜」

蜂がミを出して行つて刺す、二匹の兎は逃げながら泣き出す。

ホ「あつ蜂だ、大變〜」

ホ、ロ「痛いよ〜」

蜂「よしこれでいゝ〜」

ホ、ロ「痛いよ〜」

ホ、ロ「痛いよ〜」

ホ、ロ「痛いよ〜」中央で泣いてゐるミかけからお母さんと他の子兎の聲がする。

まひこの〜白ちやん

まひこの〜白ちやん

まひこの〜白ちやん

まひこの〜白ちやん  
まひこの〜ちーちやん

一同「あつ 白ちやんが居た。ちーちやんも居た。」

ちかけ寄つて二匹を起す  
母「まあ〜白ちやんとちーちやんどうしたの。」

母「まあ〜白ちやんとちーちやんどうしたの。」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

母「まあ〜かわい相に」  
母「まあ〜かわい相に」

始めの歌

子 カ イ ト ミ ツ カ ナ メ  
けー は ホ カ ホ カ よ い て ん き

ゴ ヒ キ ノ ウ サ ギ ノ ア カ チ ヤ ン ト カ アー ー ツ ヂ キ ガ オリ マ レ タ  
お や つ は な に に し ま せ う と か あー ー さ ん う さ き は お フ カ ヒ に

# 終りの歌

元氣に

カア サ ノ イ コ ト ラ

イ ノ ヒ コ ケ バ ミ ナ ヲ イ コ ト ノ コ モ ヲ イ コ サ ア サ サ ア サ

オ ロ 4 ハ カ リ マ セ オ イ ン イ オ ヤ ッ ケ マ ツ テ マ ス ヲ イ 子 ハ マ ダ カ ト

マ イ テ マ ス

# 日本幼児飛行機獻納貯金の第二回提唱に就て

日本幼児飛行機獻納第一回募集は、二月末日をもつて、切りのことになつて居りましたが、その後も引きつゞき御送金が絶えず、三月中旬において約三萬五千圓を超えてゐます。御送金と同時に送られた幼児、職員、父兄各位の御熱誠の數々と共に、私共係りの者を毎日感奮興起せしめてゐるのでございます。如何に賈い獻金であるかといふことを今更のやうに痛感いたして居ります。

空飛ぶ爆音を聞いては「先生、幼児號はいつ飛ぶの?」「幼児號早く飛ぶといふのは幼児の質問や會話にはいたく胸を打たれ、又、地方の同志の方々から寄せられる「是非幼児號一機を」との強い御熱意には、本會の初志を強く激励せられずにはゐません。

この全國から獻納金を一回毎に獻納致すべきか、或は續いて第二第三回をも計畫的に募集して、幼児號一機として鑄めて獻納致すべきか、本誌四月號に於て各園御熱金の委細發表と同時に御報告致す豫定であります。そこで本號に於て取り敢へず第二回目の飛行機獻金の提唱を御豫約いたします。現時局に深く思ひを致され、前回にも増して多大の御熱誠を寄せられんことを希つて止みません。

## 規定

- 一、各園で幼児の飛行機貯金を計畫的に實行して下さい。
- 一、保護者、職員の方々の御参加も希望します。
- 一、各園名(所在地代表者名)を明記し、本會へ(東京都小石川區大塚町三十五、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛)お送り下さい。必ず振替口座(東京一七二六六)をお使ひ下さい。臺灣の方は必ず電報爲替にお願ひ致します。そして「飛行機獻金」と必ず附記して下さい。
- 一、第二期へ切は昭和十九年五月末日とします。
- 一、全體をまとめて陸海軍に獻納します。
- 一、獻納には御寄託各園名を列記します。
- 一、別に受領證を差上げず、納獻完了と共に、本誌昭和十九年七月號に發表します。
- 一、一切の費用は本會の負擔とし、御寄託の金額全部を獻納します。

日本幼稚園協會  
責任者 倉橋 惣三

# 生徒募集

十九年四月入學の生徒を左の通り募集いたします。

一、募集人員 一〇〇名

一、願書受付 十九年二月一日より受付けます。

一、入學詮衡 面接口答試問をいたします。その期日は入學申込次第御通知いたします。

一、規則請求 規則竝に入學案内御入用の方は四錢切手をそへて御請求下さい。

東京都淀橋區下落合三丁目一三八八番地

## 東京目白保姆學校

校長 和田實

電話 落合長崎二五五九番

# 生徒募集

一、定員 百二十名（本年度ヨリ時局柄志望者激增シ現在百二十名ヲ收容セリ）

一、出願期限 三月末日迄

一、入學試験ナシ本校規定ノ詮衡法ニヨリ許可ス

○規則竝ニ入學案内ハ四錢切手封入申込マレタシ

○高等女學校卒業セザルモノニシテ入學志望ノ者ニハ別科ニ編入スル規定アリ

東京都品川区大井原町五、二〇八（省線大井町驛ヨリ城南バス原停留所下車二分）

所長 土川 五郎  
顧問 兼 講師 倉橋 惣三  
東京女子高等師範教授